

「IT移動」未来へ動く

IT(情報技術)と電気自動車を組み合わせ、高齢者が遠隔操作などで手軽に移動できる「コ・モビリティ」社会づくりの実証実験が行われる栗原市蔵沢の細倉メインプラザに十一日、実験主体の慶応大・コ・モビリティ社会研究センターが、一人乗り電気自動車などの機材を搬入した。本格的な実験は七月に始まり、今年十月下旬まで行われる見込み。

神奈川県の大々キャンパスから電気自動車八台などが運び込まれた。メインプラザの前で、研究者が乗っている電気自動車一台と無人の電気自動車三台が直線と二列に並び自動で走る姿

電気自動車 栗原入り

慶大 来月から実験

遠隔操作での乗り心地やスピード感などのデータを集めるため、慶大は秋にも市民の試乗を計画しているという。環境情報学部の大前学准教授は「開かれた実験を目指す」と強調。市企画課も「慶大と市民の交流の場六十人に膨らんだ。数人が数日

を披露した。実験はメインプラザ敷地内の遊園地(閉鎖中)のゴーカート場を活用。電気自動車は自動運転や遠隔操作で走る。今後、衛星利用測位システム(GPS)の機能も整備して実験を行

間、蔵沢地区に滞在する。市は無線LANや光ケーブルなどの設置や、研究者の宿泊施設の確保を担った。

